



国指定重要文化財

中島家だより

2019
秋号
VOL. 1

重要文化財中島家住宅の保存修理工事が開始されて2年半あまり、ようやく解体されていた屋根や柱、壁を元に戻すための組立工事に取り掛かっています。今後、保存修理や公開整備の様子をお知らせしていきたいと思います。

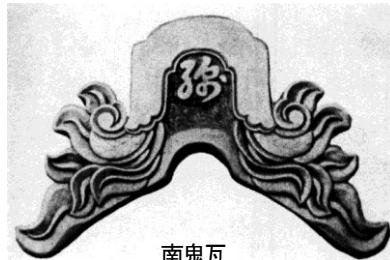
・中島家はどのような建物？

中島家は屋号を「綿屋」といい、家紋には「丸に花菱」が使用されています。このモチーフが主屋の鬼瓦の「綿」と「家紋」の装飾となっています。江戸時代の中島家はろうそくのハゼろう製造を行っていましたが、その後、酒、醤油の醸造業へと転換し、その頃の酒蔵、醤油蔵が別棟として残っています。

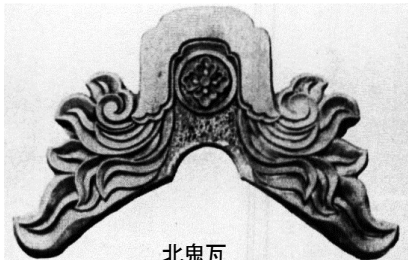
特徴的なのは主屋で、通りに面して大きく間口を持ち、瓦の勇壮な大屋根と漆喰壁のコントラストの美しい「平入」の商家で、また地域を代表する江戸期建造物として重要文化財(S. 52)に指定されました。



中島家主屋(西側)



南鬼瓦
「綿」字



北鬼瓦
家紋(丸に花菱)

・なぜ解体修理を行ったの？

中島家は数度の大改修(明治後期、大正期、昭和35年)と保存修理(昭和57年)が施されましたが、建物が大きく歪み、基軸からの修理が必要となっていました。また、改修によって構造が変更されている箇所があることから、元来の姿の調査も行いました。

歪み原因を探る地盤調査では軟弱地盤であることがわかり、そのため、建物の軸柱は400kgもある大きな河原石礎石の上に立てられていました。



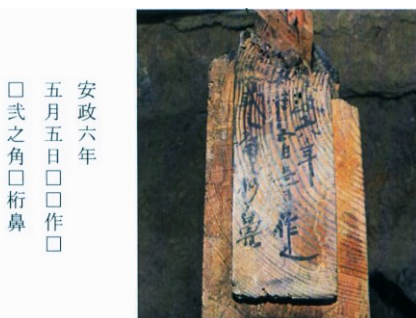
巨大な玉石
状礎石



コンクリート
基礎補強と
礎石据付

・現状と復原

建物がいつ建てられたかを知るための探査では、この建物が160年前の安政6年(1859)に建てられ、明治17(1884)年に大改修されていることが解りました。その後、度重なる改修を受けていることから、江戸時代当初の姿に戻すべく、復原修理を行っています。



安政六年
五月五日
〇〇作
〇式之角
〇桁鼻

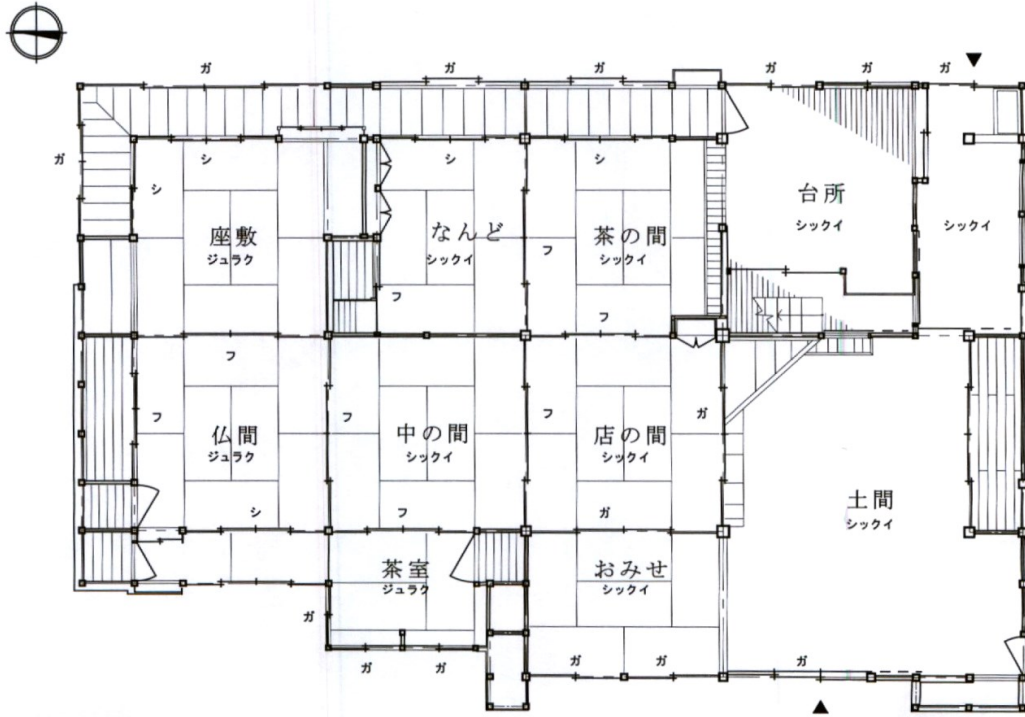
桁鼻墨書(安政6)



鬼瓦へら書き(安政6)

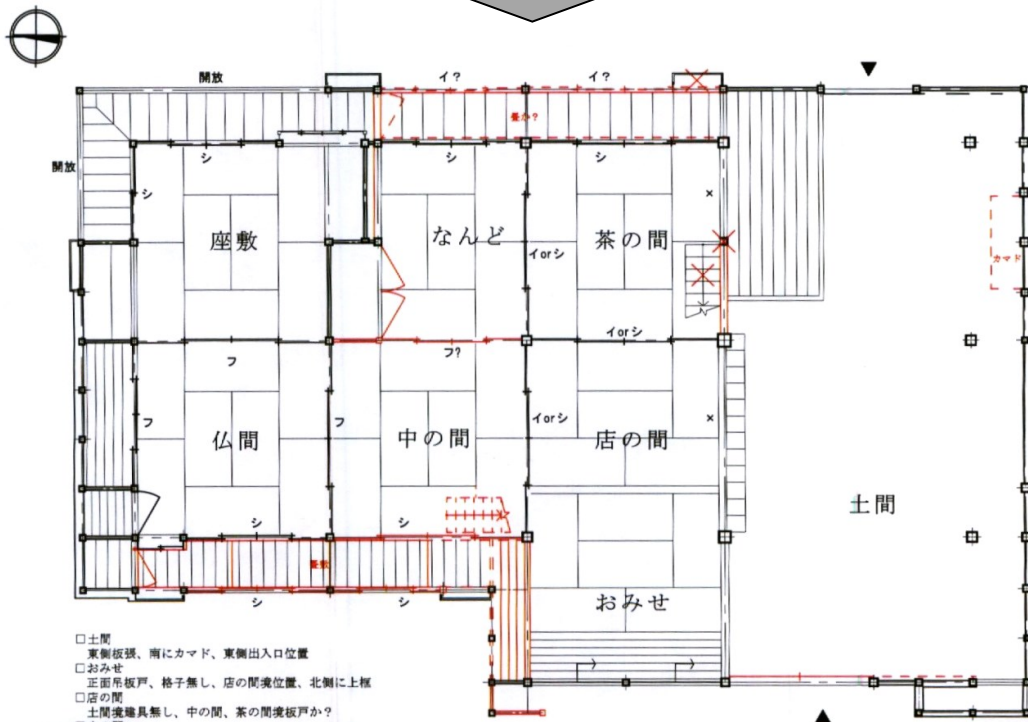
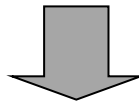


書院違い棚墨書(明治17)



主屋現状平面図

一階



- 土間
東側板張、南にカマド、東側出入口位置
- おみせ
正面吊板戸、格子無し、店の間境位置、北側に上櫃
- 店の間
土間境縁具無し、中の間、茶の間境板戸か?
- 中の間
西側に吊り梯子、なんと境壁無し、現茶室部は廊下
- なんと、茶の間
北側押入開戸、床の間形式、箱階段無し、土間境縁具無し、東縁板戸か?
- 座敷、仏間
透欄無し(地袋天袋あり)、東縁開放、西縁畳敷き

主屋当初復原平面図

一階